

# 古墳の最重要パーツ 鏡

古墳に納められた鏡の持つ意味

## 王権のあかし「鏡」

現代に生きる私たちが「鏡」は、顔や姿を映す道具です。しかし古墳時代の鏡は銅・錫などの合金で作られ、現在の鏡ほどよく映るものではありませんでした。それでも古墳時代の王たちは、中国で作られた鏡をたくさん持っており、たりなくするや中国製の鏡をまねて日本製の鏡を作るほど「鏡好き」でした。これは、鏡が単に姿を映す道具ではなく、鏡自体に宝物としての価値があったからです。そして、何よりも鏡を持つことが「王」と



三角縁神獸鏡（神原神社古墳出土：加茂町神原）  
日本で2枚しかない「景初三年（西暦239）」という魏の年号が記された鏡。邪馬台国の女王・卑弥呼との関係が注目されている。

写真提供：八日市市教育委員会



古墳から出土した鏡  
（雪野山古墳出土：滋賀県八日市市）  
王者の墓にふさわしく、石室の外内には鏡や腕飾りなどたくさんの宝物が、亡骸とともに納められている。

一枚と考えられています。

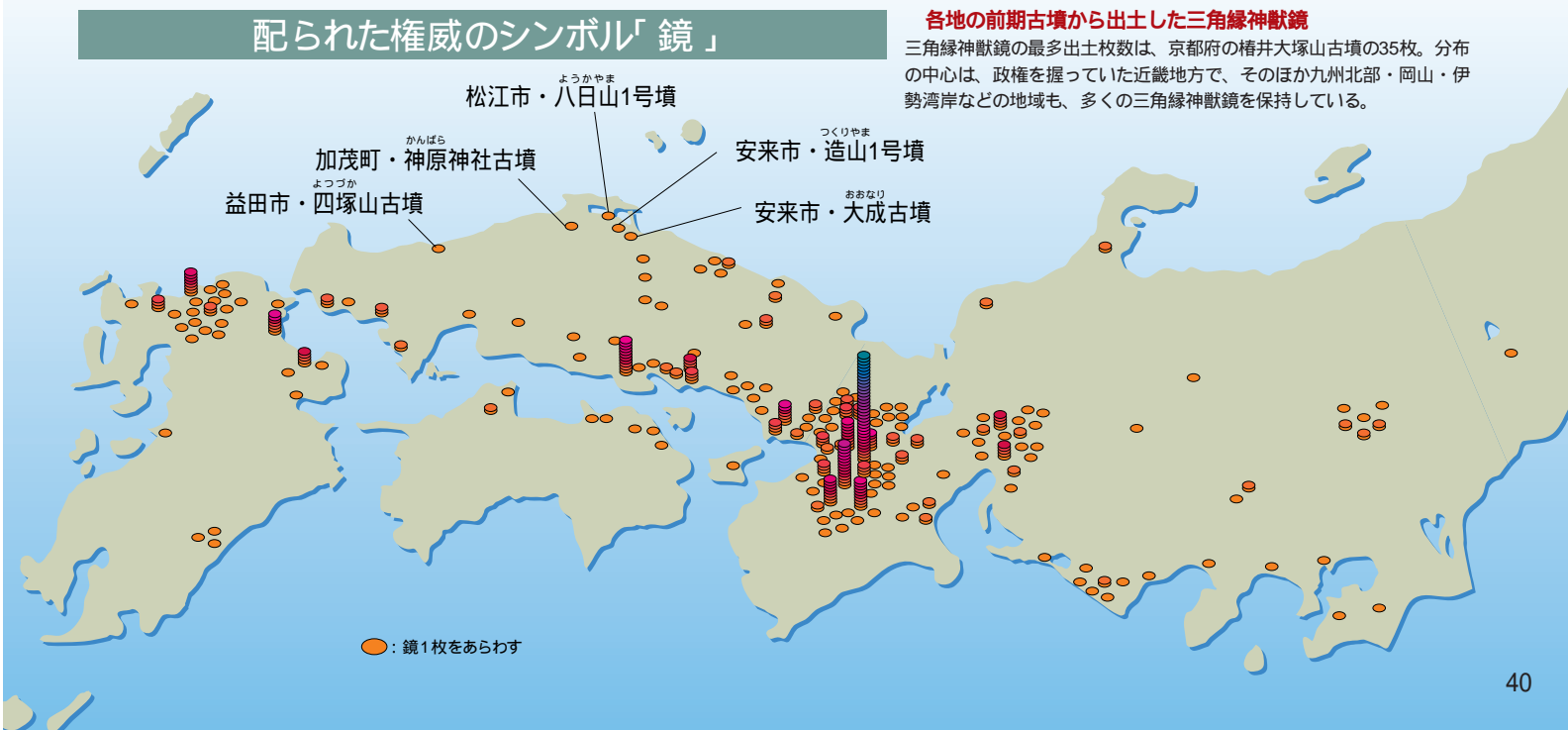
して、権力のあかしとなったからです。前期古墳から出土する鏡は、鏡の裏側の文様から「方格規矩鏡」「内行花文鏡」などいろいろな種類に分かれますが、もっとも好まれたのは「三角縁神獸鏡」といふ鏡です。

この鏡は近畿地方の古墳で大量に発見されており、それに次いで岡山、九州北部、東海、などの地方で数多く発見されています。このような分布状況から、三角縁神獸鏡は畿内のヤマト政権が、各地の中小の豪族たちに配ったものと考えられています。つまり、この鏡をもらった各地の豪族は、ヤマト政権から地位を保証され、それぞれの地域を治めるための後ろだてを得たことになるのです。

島根県内でも五枚の三角縁神獸鏡が見つかっています。その中でも加茂町の神原神社古墳から見つかった鏡には、日本中に「例しがない」景初三年（西暦239）という魏の年号が記されています。この年は魏の皇帝が、邪馬台国の女王・卑弥呼に対して「親魏倭王」という地位と、その文字が刻まれた金印や銅鏡一〇〇枚などの宝物を贈った年です。神原神社古墳の鏡はこのとき贈られた鏡の一枚と考えられています。

## 各地の前期古墳から出土した三角縁神獸鏡

三角縁神獸鏡の最多出土枚数は、京都府の柵原大塚山古墳の35枚。分布の中心は、政権を握っていた近畿地方で、そのほか九州北部・岡山・伊勢湾岸などの地域も、多くの三角縁神獸鏡を保持している。



## 配られた権威のシンボル「鏡」

松江市・八日山1号墳  
加茂町・神原神社古墳  
安来市・造山1号墳  
安来市・大成古墳  
益田市・四塚山古墳

●：鏡1枚をあらわす

# 四角い古墳のナゾ

形・大きさに  
見る島根の  
古墳の特徴

## 四角形が多い出雲地方の古墳

古墳にはいろいろな形のものがありますが、この形の違

いには何か意味があるのでしょうか？  
日本中を見渡したとき、まず目につくのが、前方後円墳です。この中には日本でもっとも大きい大山古墳（仁徳天皇陵）や菅田八幡山古墳（応神天皇陵）があり、テレビや雑誌などで目にする機会も多い古墳です。

一方島根県を見ると、石見地方などでは前方後円墳もありますが、出雲地方の古墳時代初期の古墳は、「方墳」

や、「前方後方墳」といった四角形を基本としたものが多いという特徴があります。その中でも、安来市荒島町の造山1号墳や大成古墳などは古墳のその長さが約60メートルもあり、古墳時代前期に限れば日本一大きい方墳なのです。

島根県内の前期古墳として最大のものは益田市にある前方後円墳の大元1号墳で、全長は八九メートルです。

全国を見渡してみると、奈良県にある沓合岡山古墳（景行天皇陵）の三三〇メートルを筆頭に、各地に全長一〇〇〜二〇〇メートルクラスの前方後円墳が造られています。全国的に前方後円墳が造られている中で、なぜ出雲地方の豪族が方墳や前方後方墳などの四角形を基本とした古墳を造っていたのか？このナゾはまだまだ解決してはいませんが、出雲地方の古墳文化は強い個性を持ってスタートしたと言えるでしょう（詳しくは3巻を参照）。

写真提供：桜井市教育委員会



はしはか  
箸墓古墳  
神秘的な  
纏向遺跡

## 四隅「大國」から古墳「小國」へ

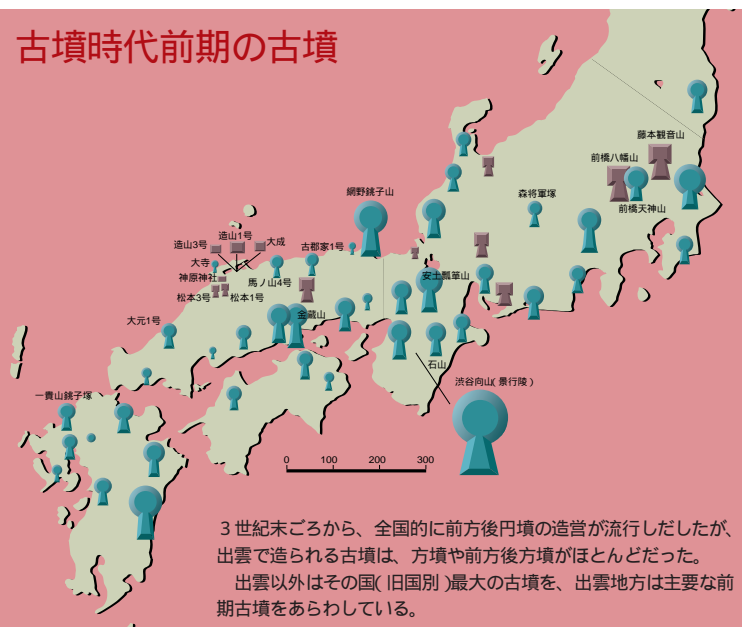
弥生時代後期～古墳時代前期に見る、有力者の墓の変遷

### 弥生時代後期の有力者の墓



2世紀から3世紀にかけては、各地でバラエティに富んだ形の墓が造られていた。なかでも出雲を中心とする山陰地域は、四隅突出型墳丘墓を積極的に造営しており、その墳丘の大きさは全国トップクラスだった。

### 古墳時代前期の古墳



3世紀末ごろから、全国的に前方後円墳の造営が流行しましたが、出雲で造られる古墳は、方墳や前方後方墳がほとんどだった。出雲以外はその国（旧国別）最大の古墳を、出雲地方は主要な前期古墳をあらわしている。

写真提供：埋蔵文化財天理教調査団



造山1号墳（安来市荒島町）  
出雲の前期古墳としては最大規模で、1辺60mの方墳。



西山古墳（奈良県天理市）  
全長180mある日本一大きい前方後方墳。



松本1号墳（三刀屋町給下）  
斐伊川中流では、全長50mの前方後方墳が2基続けて造られている。

日本最初の方墳が生まれた地  
（箸墓古墳・纏向遺跡：奈良県桜井市）  
古墳時代のはじまりを告げる、最初の方墳はこの地に造られた。箸墓古墳に葬られた人は、日本中にその名をとどろかせた「大王」であった。